

私たちが、
広島サッカーを
応援します。

With Support Athlete
SPORTS NISHIHIRO

(己斐店) 広島市西区己斐本町1-9-20
TEL (082) 271-7211

広島サッカーニュース

「サッカー」がある日常を！「サッカー」を共にできる喜びを！ J1リーグ、7月4日、無観客で再開

「サッカー」がある日常が少しずつ見えてきている。

4月7日に東京、大阪などの7都府県を対象にして「緊急事態宣言」発出され、17日からその範囲が全国に拡大し、日本中が“不要不急の外出などを控える自粛生活”へと突入していた。5月14日には39県においては宣言が解除され、5月25日には、最後まで残っていた首都圏1都3県と北海道の宣言解除が発表された。まだまだ、新型コロナウイルスの完全な終息は見通せず、「感染を抑えながら、完全な日常を取り戻すための道のりは、かなりの時間を要する」とは言え、徐々に各所への「休業要請」も解除されつつある。



全体練習を再開した、サンフレッチェ広島 (5/25 吉田サッカー公園)

(公財)日本サッカー協会では5月22日、各都道府県協会と地域協会向けに、「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン(第1版)」「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドラインの策定について」「各種チェックリストデータ」を策定し、日常の活動や大会の開催・運営についての指針を示した。(広島県協会HPからダウンロードできる)これは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大のリスクを最大限に排除し、サッカーファミリーが安全に活動できる環境を提供するための「目安」としてまとめられている。広島県協会としては、「6月1日を基準として、『JFAのガイドライン』に沿って、活動再開を計画的に行っていただきたい」と考えている。その際、もちろん、「選手、指導者、審判、その他関係者の安全を最優先にして実施していく」とは言うまでもない。「前のめり」になることは避けなければならないが、感染のリスクを可能な限り継続して排除したうえで、サッカーの活動の再開へ向けての取り組みも始めていこう。

2020明治安田生命J1・J2・J3リーグの再開日が発表された。J1は7月4日、J2・J3は6月27日に再開(J3は開幕)する。無観客での試合開催からスタートする。詳細は6月15日に発表される予定だが、対戦カードは全て組みなおし、感染予防の観点から近隣クラブとの対戦を優先的に実施する。2020 Jリーグ YBC ルヴァンカップの再開日や大会方式の変更についても、近く発表される。

サンフレッチェ広島も、およそ1か月の練習休止期間を経て、5月15日にグループ練習の形で練習を再開、25日には全体練習も再開した。

お詫びとお願い

5月号も、月内ぎりぎりの発行を目指していましたが、Jリーグの再開についての発表が5月29日に行われる予定で、関連記事を追加掲載するため、6月に入ってからの完成・発送とさせていただきます。発行日は5月31日としています。

しかし、徐々に活動再開に向けて動き出しているとはいえ、まだまだ先は見通せない状況です。日本協会、中国協会、広島県協会、それぞれのホームページや、新聞、TV等で情報をご確認いただいたうえで、適切に対応していただきますよう、よろしくお願いいたします。

日本女子サッカーリーグも、「2020プレナスなでしこリーグ」と「2020プレナスチャレンジリーグ」加盟の全所属32チームへの5月31日までのチーム活動自粛の要請が行われていた。5月25日にすべての都道府県で緊急事態宣言が解除されたことを受け、「適切な感染予防対策の実施を前提に、チームに対する活動自粛要請を解除する」ことが発表され、アンジュヴィオレ広島も、5月28日にチームでのトレーニングを再開している。チャレンジリーグの開幕日についての正式発表は5月末までのところでは行われていないが、4月28日に「開催を6月28日まで延期すること」、「3回戦総当たりのリーグ戦から、2回戦総当たりのリーグ戦へ変更」し、「第1節から第5節は中止」することが発表されている。(速報)6月2日、「チャレンジリーグは8月22日開幕」と発表。

3月号と4月号でもご紹介した通り、サッカー界でも『Sports assist you 〜いま、スポーツにできること〜』と銘打って、ひとりでも、また室内でも取り組むことで健康の維持、促進につながるコンテンツをインターネット上で配信する取り組みが引き続き、行われている。JFAのホームページ(<http://www.jfa.jp>)からたどることができる。

「プロサッカー選手らによる動画コンテンツ」は、毎日毎晩のように追加されている。「JFATV Classics」では、過去の代表戦の無料公開も続けている。

これらのサイトは、5月末までの公開予定が、6月末まで延長されているものも多い。

サンフレッチェ広島の動画投稿サイトYouTubeの専用チャンネル「サンフレッチェ広島チャンネル」では、練習の様子やホームエクササイズを紹介、新型コロナ感染予防のためのサポーターへのメッセージ等々、情報を提供している。

(検索サイトで「サンフレッチェ広島チャンネル」からサイトへ進むことができる。)

アンジュヴィオレ広島でも、『#アンジュチャレンジ』(公式ツイッターから検索)の中で、多くの選手に加えて、運営スタッフも参加し、「チームからの健康維持・促進のための動画」、「新型コロナウイルス感染拡大と戦う方々へのメッセージ」、「選手たちのおうち時間の過ごし方」など、クラブからの動画を提供、発信している。

(日本女子サッカーリーグのHP内の、「ニュース」からもたどることができる。)

広島・サッカーアーカイブ

日本代表、ホームでアジア初制覇 アジアカップ1992

日本のサッカー、躍進へのエポックメイキング



アジアカップ初優勝、日本代表 (11/8 広島広域公園陸上競技場)

1992年(平成4年)11月7日、広島広域公園陸上競技場で、日本代表はサウジアラビア代表を1-0で破り、アジアカップ初制覇、アジアNo.1の道を歩み始める大会となった。また、1993年から始まる「Jリーグ」への追い風となった。

この年の8月29日、中国・北京で行われた第2回ダイナスティカップ(→東アジア選手権→EAFF E-1選手権)決勝で日本代表が韓国代表を2(PK4-2)で破り、初めての国際公式大会タイトルを獲得していた。

広島のサッカー界にとっては、1994年(平成6年)のアジア競技大会、1996年(平成8年)の国民体育大会へ向けてのリハーサル的な要素に加えて、FIFAワールドカップ2002の日本招致から広島への会場誘致へ向けての大きなイベントの意味もあつたのではなかろうか。

今回は、この「第10回アジアカップサッカー選手権大会決勝大会」(現在は、AFCアジアカップ[開催国][年度])を振り返る。

第9回までの日本代表の成績

第1回大会は1956年、(当時の)イギリス領香港で、韓国、イスラエル、香港、南ベトナムの4チームが参加して行われ、韓国が優勝した。日本代表が決勝大会へ初めて出場したのは1988年にカタールで行われた第9回大会。大学生が半数余りを占めるチームは1分3敗でグループリーグで敗退した。このように、当時の日本では、それほど認知度の高い大会とは言えなかった。

第10回大会/参加国

20か国を各グループ3~4チームに分けた6グループによる予選(リーグ戦)の各1位と、前回優勝のサウジアラビアおよび開催国・日本の、合わせて8チームが参加した。

Aグループ: 日本、アラブ首長国連邦(UAE)、

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)、イラン・イスラム共和国(イラン)

Bグループ: サウジアラビア王国、中華人民共和国(中国)、カタール、タイ

第10回大会/日本代表

Jリーグの開幕を翌年に控え、また、ワールドカップUSA1994出場を目指す日本はハンス・オフトを監督に迎え、前述のダイナスティカップ出場メンバーとほぼ同じ、次の20選手であった。

監督 マリウス・ハンス・オフト

GK 松永成立(横浜M)、前川和也(広島)

DF 大嶽直人(横浜F)、勝矢寿延(横浜M)、堀池 巧(清水)、柱谷哲二(W川崎)、

都並敏史(W川崎)、井原正巳(横浜M)、飯倉裕二(市原)

MF 福田正博(浦和)、ラモス瑠偉(W川崎)、山田隆裕(横浜M)、北沢 豪(W川崎)、

吉田光範(ヤマハ)、森保 一(広島)

FW 武田修宏(W川崎)、三浦知良(W川崎)、中山雅史(ヤマハ)、

神野卓哉(横浜M)、高木琢也(広島)

第10回大会/準備・運営

主管協会となった広島県サッカー協会は、「アジアカップサッカー実行委員会」を組織し、半年前から(現在ではもっと前から)の準備が必要になってきているが大会の準備・運営に当たった。それまでも、単発的には国際試合を開催した経験はあったとはいえ、10か国からのチームが集まる大会の運営は初めてのため、観客動員も含めて、不安がいっぱいのスタートとなった。6月に「第1回の記者発表」、7月に「組合せ抽選会」、それでもなかなか広島のサッカー界への周知は不十分で、認知度は上がらず、チケットの販売状況も芳しくなかった。大会まで1か月を切った10月になって、「記者説明会」(3日)、「第2回記者発表」(14日、オフト監督、高木、前川の2選手も出席)とつづき、PRに務めた。参加8チームの監督を迎えての「監督記者会見」(27日)、「Jリーグ」および「2002ワールドカップ招致説明会」(29日)を終え、開幕・開会式を迎えた。その間、各部署での準備は、表に見えない中でも、着々と進めた。

心配されていた観客数も、大会が進むとともに日本代表が勝ち進むに連れて増えていき、広島広域公園陸上競技場で行われる日本の試合の観客数は3万人を超える。準決勝は会場が広島スタジアムのため、超満員の15,000人、決勝は日本の進出でチケット販売は急上昇、定員いっぱい50,000人で膨れ上がるようになった。(当時は、観客数を1人の単位まではカウントしていない。)

第10回大会/日本代表の試合記録と全結果



日本代表、初戦(vs UAE)の先発メンバー (10/30 びんご運動公園)

グループリーグ

第1戦 日本 0(0-0,0-0)0 UAE(10/30 びんご運動公園陸上競技場)

GK松永: DF勝矢、堀池、柱谷、井原; MFラモス、北沢、吉田、森保; FW三浦、高木

第2戦 日本 1(0-1,1-0)1北朝鮮(11/1 広島広域公園陸上競技場)

GK松永: DF勝矢、柱谷、都並、井原; MF福田、ラモス、北沢(中山)、森保; FW三浦、高木

日本の得点: 80分 中山(補:三浦)

第3戦 日本 1(0-0,1-0)0 イラン(11/3 広島広域公園陸上競技場)

GK松永: DF堀池、柱谷、都並、井原; MF福田、北沢(中山)、吉田(ラモス)、森保; FW三浦、高木

日本の得点: 85分 三浦(補:井原)

Aグループ イラン2-0北朝鮮、UAE0-0イラン、UAE2-1北朝鮮

①日本(勝点4、得失点差+1、総得点2)、②UAE(4、+1、2)、③イラン(3、1)、

④北朝鮮(1、-3) 抽選により、日本が1位。当時の勝点は、勝ち点は2

Bグループ サウジアラビア1-1中国、カタール1-1タイ、中国0-0タイ、

サウジアラビア1-1カタール、サウジアラビア4-0タイ、中国2-1カタール

①サウジアラビア(4、+4)、②中国(4、+1)、③カタール(2、-1)、④タイ(2、-4)

準決勝 日本 3(0-1,3-1)2 中国(11/6 広島スタジアム)

GK松永(80分退場): DF堀池、柱谷、都並、井原; MF福田、ラモス、北沢(前川)、森保; FW三浦、高木(中山)

日本の得点: 48分 福田(補:三浦)、57分 北沢(高木)、84分 中山(福田)

サウジアラビア 2-0 UAE

3位決定戦 中国 1-1(PK4-3) UAE

決勝 日本 1(0-0,1-0)0 サウジアラビア(11/8 広島広域公園陸上競技場)

GK前川: DF堀池、柱谷、都並、井原; MF福田、ラモス、北沢、吉田(勝矢); FW三浦、高木

日本の得点: 36分 高木(補:三浦)

サンフレッチェ広島の3選手の出場記録

サンフレッチェ広島からは、ダイナスティカップにつづいて、高木、森保、前川の3選手が選ばれていた。

"アジアの大砲"高木琢也はダイナスティカップではほぼフル出場、アジアカップではやや精彩を欠くものの、準決勝の75分での交代を除けば4試合でフル出場、決勝戦で日本を優勝に導くゴールを決めた。森保 一はダイナスティカップでは初戦のみの出場だったが、アジアカップでは守備的MFとしてレギュラーポジションを獲得、準決勝までの4試合にフル出場した。しかし、第1戦と準決勝で警告を受け、累積警告のため、決勝のピッチには立てなかった。前川和也は松永のバックアップ的なGKで、出場機会がなかなか訪れなかったが、アジアカップ準決勝のvs中国戦の60分、松永が退場となり、急な出場となった。決勝もゴールを守り、無失点に貢献、優勝の瞬間をピッチ内で迎えることとなった。

このような出場記録であったため、地元・広島の3選手のそらい踏みは、準決勝の60分から75分までの15分間だけだった。



守備的MFとして活躍した、森保選手(11/1広島広域公園陸上競技場)



急な出場となった前川選手、いったん同点となるゴールを許す(11/6 広島スタジアム)

4月号の記事、お詫びと訂正

2ページ右中央辺り 天皇杯特集 広島県のチーム、5回の優勝の記事中の、東洋工業のメンバーに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。確認が不十分でした。

東洋工業 第47回(1968年(昭和43年)) 東洋工業 1-0 三菱重工 <誤> GK船本; FB丹羽、今西、桑原弘、寺西; HB小城、二村; FW岡光、桑原崇、桑田、松本 <正> GK船本; FB丹羽、大野、今西、桑原弘; HB小城、二村; FW岡光、桑原崇、桑田、松本

《新“蹴求”》〈II-17〉Special版

「ひろしま」に‘元気’を送り、お互いに励まし、支え合おう!!

サンフレッチェ広島、公式戦再開に向け準備着々…



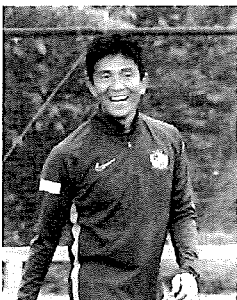
広島に‘元気’を送ろう、サンフレッチェ広島(5/25 吉田サッカー公園)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中断していたJリーグが、政府の緊急事態宣言全県解除(5月25日)によって大きく動き出した。

2月16日のYBCルヴァンカップ、FC横浜戦(アウェー)と2月23日のJ1リーグホーム開幕戦、広島アントラーズ戦とともに完封勝ちしたサンフレッチェ広島。最高のスタートを切ったぶん、公式戦再開に向けての調整には大きな困難が伴ったのは言うまでもない。2月のキャンプ以降、着実に積み上げてきたモノが、またニュートラルになったのも同然で、度重なる再開時期の延期を受け城福浩監督は、一時期「気持ちを一度切ってからサッカー以外のこともやって、次にみんなで集まった時、サッカーをやりたいなと心から思えることが大切」と繰り返した。

広島県が感染拡大警戒宣言を発出した4月13日午後、新型コロナウイルス感染予防対策および拡散防止のため、クラブ側は2週間程度の活動休止を発表。結果的にグループ練習が再開されたのは5月15日からで、一週間後の5月22日には午前と午後の2班での練習にステップアップ。そして5月25日、29選手が一同に会して全体練習へと移行した。

J1の18クラブは、それぞれその地域ならではの課題を抱えながら、それでも待望久しかった公式戦のピッチへと向かう。この長く極めて変則的なインターバルが吉と出るか凶と出るか、は天のみぞ知るところとなった。ただ、サンフレッチェ広島の全体練習再開初日を見た限り、チームの緊張感はずいぶん良いレベルで上下していたように見えた。ハードなメニューの合間に佐々木翔主将が大きな声を何度も出し、城福浩監督の表情もいつも通りだった。そう、「非常事態」が続く中では、「いつも通り」というのが一番難しい。



全体練習を笑顔で見守る、城福浩監督

全体練習の再開に当たっての、城福浩監督の話

(新型コロナウイルス感染対策で) 気をつけることは多くなりますが、全体でトレーニングできるように、いよいよカウントダウンのイメージが出てきました。

(個々の選手の) 全体の中でのコンディションの位置づけができたのでやはり全体練習はいいなと思います。

なるべく持久力、回復力を個人個人で上げていく。その上げ方はギリギリのところを狙っているのですが、個性を大事に、ケガをさせないようにしながら上げていく…グループ別で少し個人のバラつきが出てきたので、ここから先、全体のフィジカルを上げてばらつきをなくしていくことをやりながら、対人のトレーニングをしっかりと盛り込み、厳しいトレーニングができるようにならないと戦術の確認もできません。ひとつひとつクリアしていきたいと思っています。

(過密日程対策で) 選手としては辛いメニューかもしれませんが、とにかく回復力を高め、そして選手層を厚く。全体で戦術の確認ができるようになった時には、激しいトレーニングをしながらレベルアップできれば、選手層も我々の武器になってくると思います。

佐々木翔主将の話

全体練習でさらに密になる可能性もあるので、そういったところのケアや、リーグを再開していく時に向けて、僕らが注意すべきこと、チームの活動が停止にならないための、そういう内容が(ミーティングでは)多かったですね。

みんなで集まってできるのは嬉しいですね。まずはコンディションを戻すこと。個人個人がケガしないように、いかに強度を上げていけるかが非常に重要なところ。監督たちがメニューを考えてやってくれる中で選手はケアを怠らないこと。いい練習ができる準備を常にすることが大事だと思います。

みんなが集まってできるのは嬉しいですね。まずはコンディションを戻すこと。個人個人がケガしないように、いかに強度を上げていけるかが非常に重要なところ。監督たちがメニューを考えてやってくれる中で選手はケアを怠らないこと。いい練習ができる準備を常にすることが大事だと思います。

広島大学病院を訪ね、医療関係者を激励

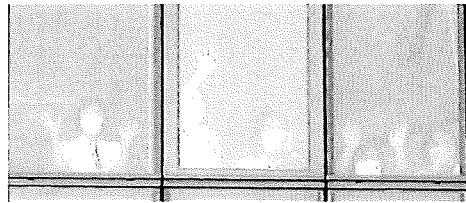
城福浩監督と青山敏弘、佐々木翔、川辺駿、荒木隼人、大迫敬介の5選手らは5月13日、広島市南区の広島大学病院を訪ね、新型コロナウイルス患者を受け入れている医療関係者を激励した。サンフレッチェ広島は同大学病院と医療支援協定を締結している。青山や佐々木ら選手側からも今回の訪問を強く希望する声が上がっていた。

マスク姿の一行は院内を徒歩移動して入院棟を見上げることができる「いこいの森」前までやってくると、木内良明病院長ら病院スタッフに出迎えられ、仙田信吾社長があいさつした。

「新型コロナウイルスの感染拡大が長引く中、日々の医療活動、治療活動ほんとうに頭の下がる思いで、ありがとうございます。ささやかな感謝の気持ちとして、手を振らせていただくことでみなさんにわずかでもお礼を申し上げることができればと思っています」

続いて選手からサイン入りユニホームとマスクが贈られ、病院側からは感謝状が仙田社長に手渡された。そのあと、城福浩監督と選手は窓の向こうに集まっている病院関係者、スタッフ、入院患者のみなさんしばらく手を振り感謝の気持ちを笑顔に込めた。

高層階のガラス越しに確認できた医療関係者のみなさんのその表情がとても和やかに見えたのが印象的だった。毎日、身を削るような思いで向かう職場もまた日常とはほど遠い世界だ。サッカーを通じて広島全体で困難にも向かっていく。そうやって戦後の広島はいつも苦難の歴史を乗り越えてきた。



窓ガラス越しに手を振り返す、病院スタッフら (5/13広島大学病院)



病院スタッフや入院患者らに手を振る、監督、5選手

広島大学病院 木内良明院長の話

私たちは患者さんの治療を行っているわけですが、それを外からサポートしていただくのは、サポーターが選手を強くするのと一緒で、我々もパワーアップしてよりよい医療が提供できると考えています。非常に嬉しい日々の活動の励みになります。患者さんだけでなく、見る限りでは職員の方が喜んでいたかもしれません。

今、新規の発生患者数が少しずつ減ってきているということですが、ここで油断することなく、まだまだ長期戦と言われているので、完全に収束するまで医療関係者だけでなく社会のみなさんも頑張ってくださいということ、そういうメッセージを発していただく非常にいいチャンスだと思っています。マスクについては、こういうサージカルマスクは月間7、8万枚使用します。すぐなくなるのが現状ですので有効に使わせていただきます。

城福浩監督の話

今世の中がたいへんな中、県民の命を守ってくださっている医療従事者の方への感謝の気持ちで、それはみんな持っていますがこういう形で手を振ることもでき日ごろの思いを伝えられたと思います。我々にその本当の(たいへんさの)ところは想像できないのですが、最前線に立っておられる方々に敬意を表しエールを送るというのは自分たちにとっても特別な経験になりました。

日常が大変な中、手を振りに来てくださり笑顔も見せていただきました。日ごろの苦勞が一瞬でも和らぐようでしたら良かったかな、と…これからまだ戦いは続くので頑張ってください。

もちろん我々も感染しない、させない行動をとらなければいけません。その中で医療従事者の方が中心となってコロナを抑え込めた時に、Jリーグも始められると思います。本当に苦しい思いをさせている県民の方もおられると思いますが、Jリーグが始まれば光を感じるような試合をお見せしたいと思いますし、みなさんと一緒に戦っていい結果を喜びたい、そういう準備を今からしっかりしておきたいですね。

(田辺一球)

中止、延期となっている大会、リーグ戦

引きつづいて、大会やリーグ戦等の中止や延期、開幕延期が発表されている。

5月末までの大会・試合は、全国大会、中国大会、広島県大会とも、すべて中止、延期された。全国大会は、県予選や各地域予選実施の関係もあって、8月中に開催予定の大会までは多くの大会の中止が発表されている。別途、個別に発表があったもののみを、掲載する。(3、4月号掲載の情報と重複するものもある)

全国リーグの延期、開幕延期、中止

- 2020明治安田生命J1リーグ 第2節～再開日未定 → 7/4再開
- 2020 JリーグYBCルヴァンカップ グループステージ第2節～延期
→ 大会形式を変更して開催、開幕日未発表
- 2020プレナスチャレンジリーグ 第1節～5節 (4/5～5/3) → 中止
第6節～12節 (5/16～6/28) → 延期
大会形式を3回戦総当たりから2回戦総当たりのリーグ戦へ変更
→ 8/22 開幕
- Fリーグ2020-2021 (ディヴィジョン1、ディヴィジョン2)
5/30開幕 → 9月開幕
- Fリーグオーションカップ2020 開幕延期 → 中止

全国大会・中国地域大会の中止

- 日本スポーツマスターズ2020愛媛大会 (9/18～22 愛媛県) → 中止
- 2020年度 第44回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント (8月～9月 関西地区) → 中止
- 第55回全国高等専門学校体育大会(サッカーの部)
兼 第53回全国高等専門学校サッカー選手権大会 (8/22～26 兵庫/三木) → 中止
- 令和2年度全国中学校体育大会
兼 第51回全国中学校サッカー大会 (8/20～24 三重県) → 中止
- 第34回全国少年少女草サッカー大会 (8/11～15 静岡県) → 中止
- JFA U-18女子サッカーファイナルズ (9/19、21 京都/サンガS) → 中止
- 第16回全日本大学フットサル大会 (8/28～30 大阪/岸和田市総合体育館) → 中止
- JFA 第7回全日本U-18フットサル選手権大会 (7/30～8/2 京都/ハンナリーズアリーナ) → 中止
- JFA パーモントカップ第30回全日本U-12フットサル選手権大会 (8/21～23 東京/駒沢オリンピック公園) → 中止
- 第67回中国高等学校サッカー選手権大会 (6/20～22 岡山) → 中止

Sports assist you

～いま、スポーツにできること～



JFA サッカーファミリー 支援窓口

GOALS beyond COVID-19
この危機を、ともに乗り越える

内容や詳細は、(公財)日本サッカー協会HP (www.jfa.jp)をご覧ください。

広島県大会の中止

- 第73回広島県高等学校総合体育大会 (サッカー男子の部) (サッカー女子の部)
(5/30～6/14 県内各地) → 中止
- 第67回広島県高等学校定時制通信制総合体育大会 (サッカーの部) (5/23 広島国泰寺高校G) → 中止

各カテゴリーの中国リーグ、広島県リーグについても、既に開幕しているものは中断・延期、開幕前だったものは開幕延期となっている。その後の対応は、2回戦当たりのリーグ戦を1回戦当たりに変えるなどのリーグ戦大会方式の変更も視野に、状況を見極め、再開や開幕日を検討している。

<p>We Support Athletes! SPORTS NISHIHIRO</p>	<p>住友ゴムグループ スポーツ用ロングバイル人工芝 Hybrid-Turf [ハイブリッドターフ]</p>	<p>Friendly Sports</p>
<p>動く、おもてなし。 FORBLE</p>	<p>いい水と暮らし CreCla クリクラ</p>	<p>NITTO 株式会社 ニットー GUARD System Co. Ltd.</p>

SVCS5000-WBK

MCS-WBL

株式会社 ミカサ
www.mikasasports.co.jp

積攻
MORE AGGRESSIVE